

健康生活未来都市構想

— 三世代が自立・共生し、住み慣れたところで安心して老いる街 —



健康を育む
衣・食・住

三世代が自立し
支え合って生活する

健康空間・安全交通
システムがある

健康的に生活する

自然
環境
文化

教育とビジネスで
ゆとりの生活を創る

チーム医療で
健康を支える

情報ネットで
広域を支える



病病



診連携

成人病センター

後方支援病院



のびのびと自然になじむ子供たち



いきいきとしたお年寄り



はつらつと仕事に励む若者

三世代が共生するまち

三世代の望ましい健康像とその具体化

高齢者を中心に

高齢者の希望は: **自分の存在感**、存在場所があり、いきいきと

高齢者の自助の誘導

- ・目標を明確にする: 「いきいきとした」高齢者
医療費の合理化に有効
- ・可能とする背景: 生活社会環境、教育(全世代)
子供、若者との共生 少子化対策に有効、
共助の成立
- ・健康の正しい理解: 情報提供と教育

医療

- ・**病院から** **地域・在宅が中心**: 組織、システム、医療人育成
- ・**予防**
- ・医療費のかからない(ムダのない)方法

若者を中心に

若者の希望は: 安心して**はつらつと仕事**をする
(病気にならない)

健康創生:

- ・目標を明確にする: 「**夢のある**」若者
医療費の合理化に有効
- ・可能とする背景: 生活社会環境
子供、高齢者との共生 少子化対策に有効、
共助の成立
- ・健康の正しい理解: 情報提供と教育

医療

- ・自己健康管理
- ・精神衛生

子供を中心に

「**のびのびとした**」子供たち

自然との共生: 社会生活環境、3世代の共生

医療

- ・節度ある需要と供給
- ・医療機関の機能分化、医療機関と家族

医療にかかわる者として

追求すべき望ましい健康を明確に

: 「**からだの健康とこころの健康を**」

到達像の確立には医療のみならず教育、環境、文化、防災などの視点

: **医学・医療学のみならず自然科学(工学、情報学など)、人文社会科学領域**
の広い知財の活用

到達像の達成に向けた理論・技術・方法の確立、**人材の育成、システム構築の**
トータルデザインの企画、立案

到達像に向けた現時点で可能な作業を始動する。

その他

納得のゆく生涯について考える機会を

健康についての正しい理解

(まずは「病気を治す」ことの正しい理解を)

医療についての正しい理解

・皆保険制度の意義

・医療費をかけないことの正当性

医療システムの合理化

・病院診療と地域・在宅医療の連携と適正化

(家庭医、保健師、薬剤師の機能)

・需要抑制と診療抑制

受診回数の減少、入院期間の短縮

知恵の活用、ボランティアの活用

正しい情報と教育の重要さ！！

人間健康科学

Human health sciences

笹田昌孝 十一元三 山根 寛

Abstract

Medical science and medical practice developed remarkably and economic conditions progressed so much in recent years in Japan. As the result, the average span of life of the Japanese is now the longest in the world and we are well off. The matter of the greatest concern of Japanese people at present is health. In fact, health foods, TV program on health and various matters concerning health overflow around us.

It is fairly difficult to define health clearly and correctly. So long as anyone who wants to be in good health, he must be well physically and mentally.

It is necessary to pursue the true health, and to investigate theories and techniques to obtain and concrete it, which is called human health sciences.

Key words: human health science, physical and mental health, cure and care

はじめに

我が国において医学・医療はめざましく進歩し、また飛躍的な経済発展により人々は長寿と豊かな生活を手中にした。現在国民の最大の関心事は‘健康’といわれている。事実、健康食品をはじめ健康をテーマにした番組など、身の回りには‘健康’と名のつく事項があふれている。

しかし、果たしてその健康とはどのようなものか、問いかけられると簡単には答え難いものである。まずは疾病があるならこれを治し、また予防に努めて得られる、からだの健康がある。しかし、これのみでは人は真に健康とはいえず、こころの健康を併せ持つことが重要である。そしてここにいう真の健康とはどのようなものかを明確にし、それを獲得するための方法と技術を開発し、更に具体化することを追求する一つの新しい科学、人間健康科学が成立すると考

えられる。

本稿では人間健康科学について概説する。

1. 人間健康科学の提唱

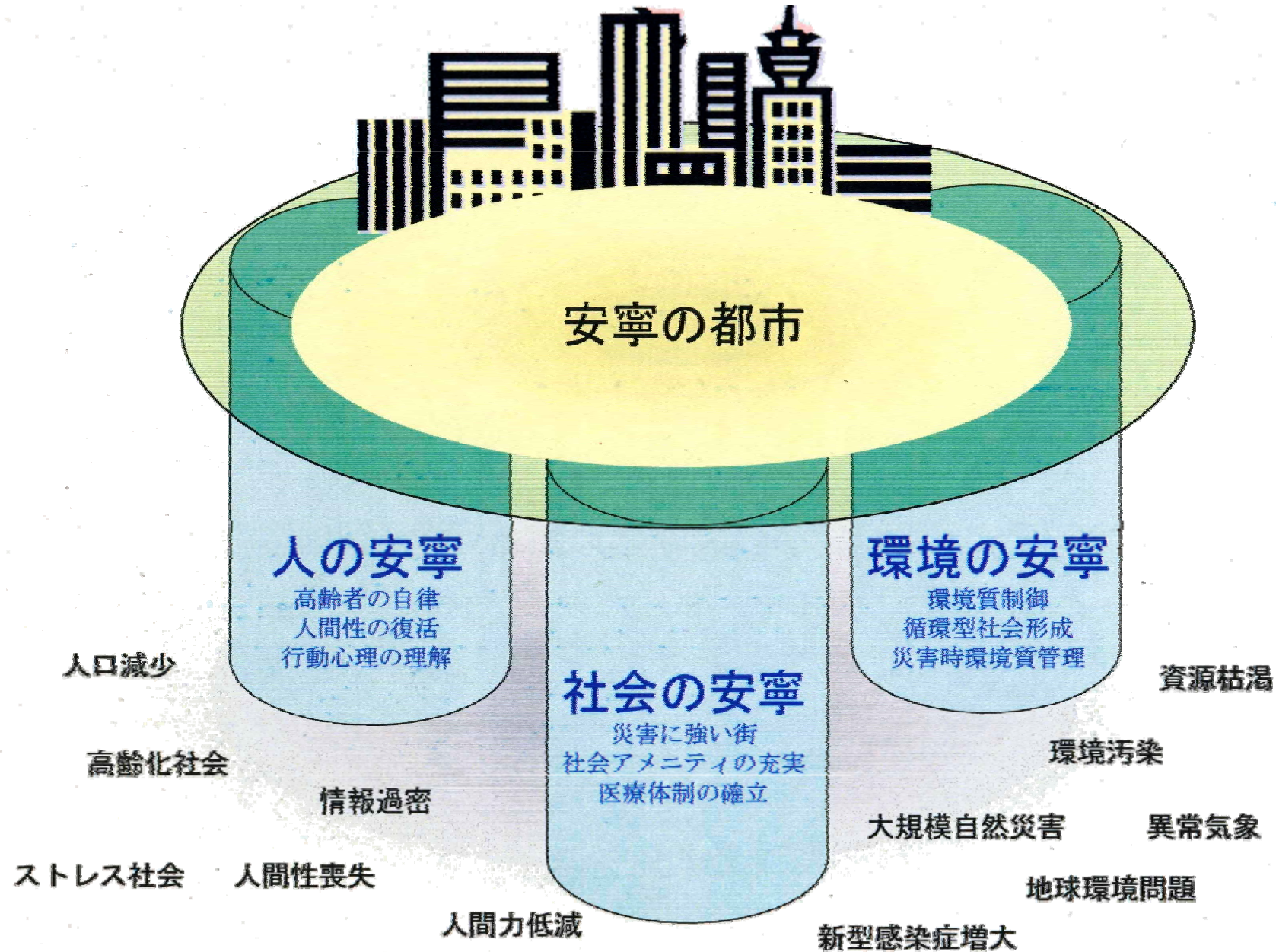
人間健康科学は、人間の健康を自然科学および人文社会科学の研究手法を用いて解析し、人間にとって望ましい健康、健康生活を達成するための理論の構築と方法・技術の確立を行うことである。

人間の健康はWHOの定義を基本とするが、そのなかで身体的健康の獲得に向けた研究は医学・薬学を中心に近年急速な発展を遂げ、その成果はめざましいものがある。公衆衛生学や栄養学の発達も加わることにより生存寿命は飛躍的に延長し、特に我が国では著しい。このような展開をふまえて人々の期待は更に大きくなり、今後とも疾病に関する諸問題の解決に向けて新規診断、創薬、そして移植医療や再生医療など

Masataka Sasada, Motomi Toichi, Hiroshi Yamane: Human Health Sciences. Graduate School of Medicine, Kyoto University 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻

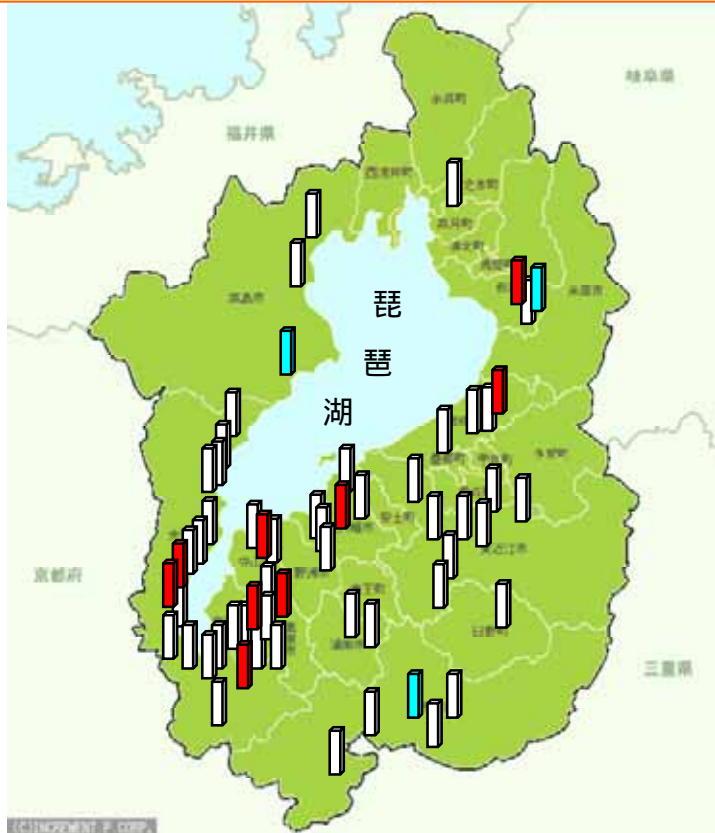
笹田昌孝 (現 滋賀県立成人病センター 総長・病院長)

安寧の都市創造のための揺るぎない基盤の必要性



がん診断に不可欠の病理診断を全県下で

滋賀県の病院における病理医の存在の現状



病院数：60

- 常勤 病理医 9 施設
- 非常勤 病理医 3 施設
- 病理医 不在 48 施設

全国病理医数：2,085人
滋賀県病理医：24人

日本病理学会 2010.9.1

バーチャルスライドによるテレパソロジー

技師はいるが病理医がいない病院に
的確かつ標本作製後の短時間で病理診断を
医師不足、距離、時間の超越

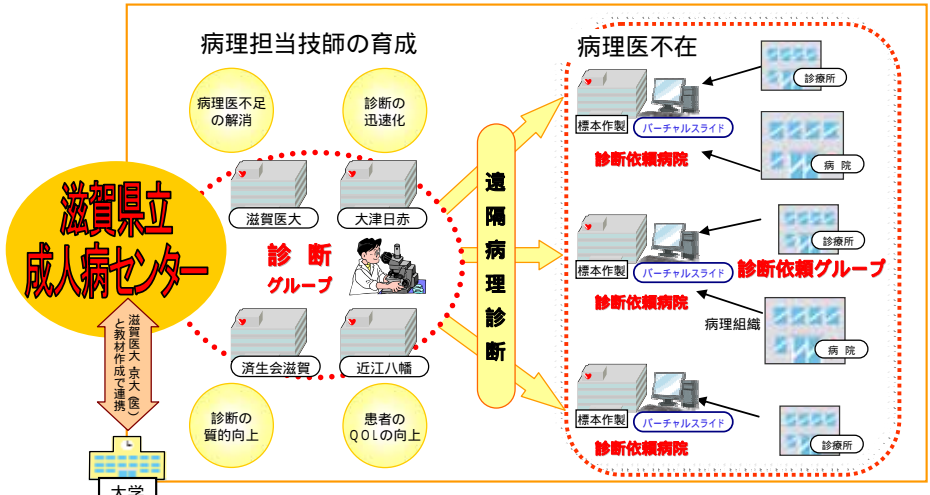
病理標本を見る



診断する



全県型遠隔病理診断 ICT ネットワーク事業・イメージ詳細図

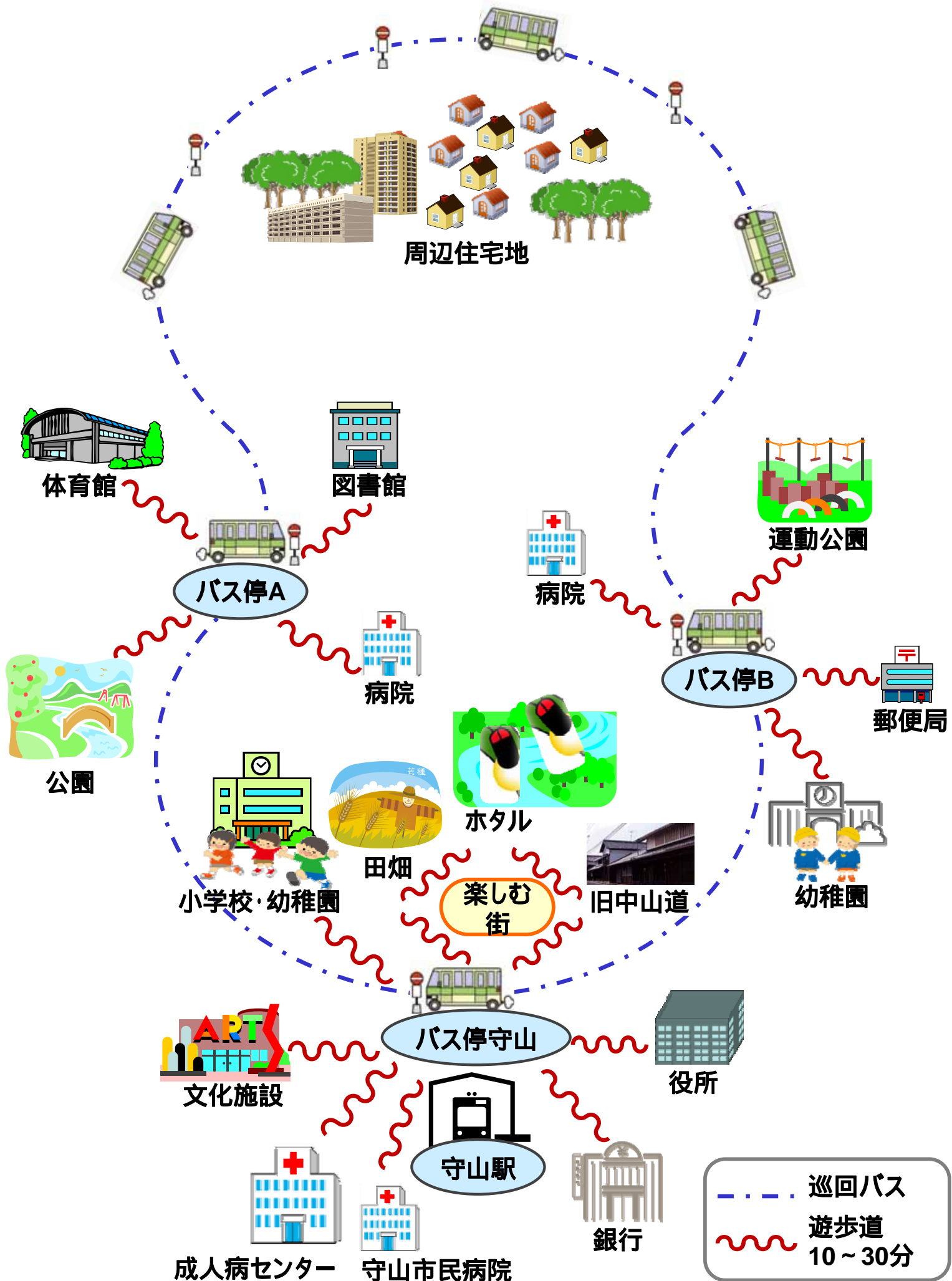


専門分野の病理医による
正確な診断

従来の10日から1~2日に
迅速な診断

(平成22年度総務省採択事業)

環境・健康生活未来都市：守山のイメージ図



医療福祉をとりまく現状・課題と近未来における的確な対応

【 重要な視点 】

【 必要な対策 】

重点とする疾病

がん

- ・生涯で罹患率は既に男性50%、女性40%
- ・死因第一位
- ・治る時代である
- ・生活しながら治す
- ・一生に何度も、高齢

生活しながら治す

- ・治すこと！
- ・迅速正確な診断
- ・新しい治療法
- ・通院外来治療
- ・短期入院、患者QOL

脳,心血管障害

- ・死因第二位、発症時の対処が重要
- ・発症を予防する時代
- ・生活習慣病のレベルで予防

迅速な対応と予防

- ・的確な診断治療連携
- ・新しい予防的治療法
- ・生活習慣病予防対策

認知症

予防し、共に生きる

広域(全県等)視点の医療

- ・広域の地理的特性
- ・医師不足に対処する

どこに住むどなたにも

- ・広域医療体制、遠隔医療
- ・情報システムの活用
- ・チーム医療、医療専門職の育成

医療の需要増大と高齢者の疾病構造

- ・高齢者の増加、高齢者の病気、高齢者に適した治療法
- ・患者さんのQOL向上

病院医療から地域医療へ

- ・早期離床、早期退院
- ・幅広い医療を担う人材育成

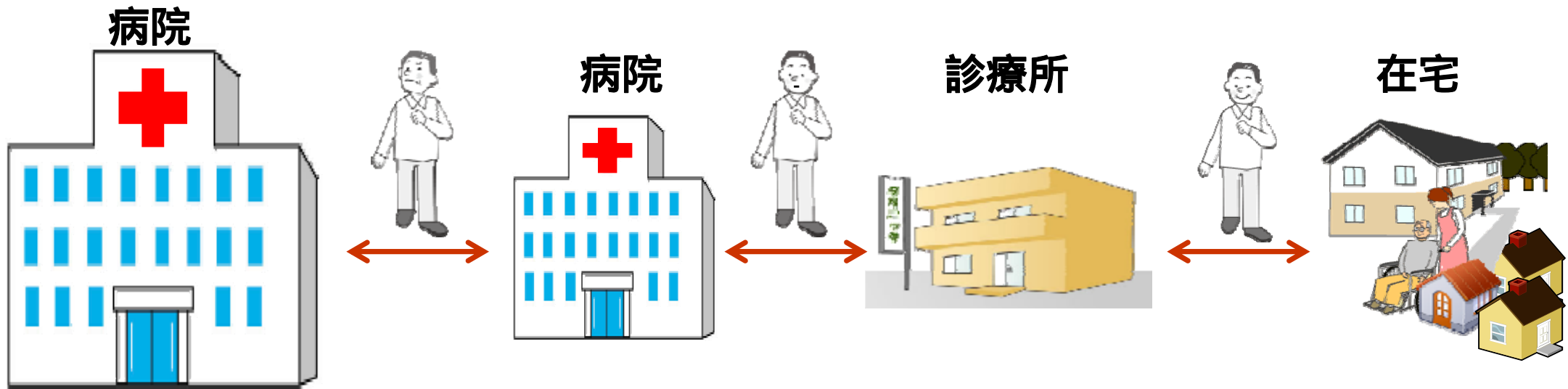
医療を協働して育む

- ・三者の協働
- ・医療経済、医療福祉体制を護る

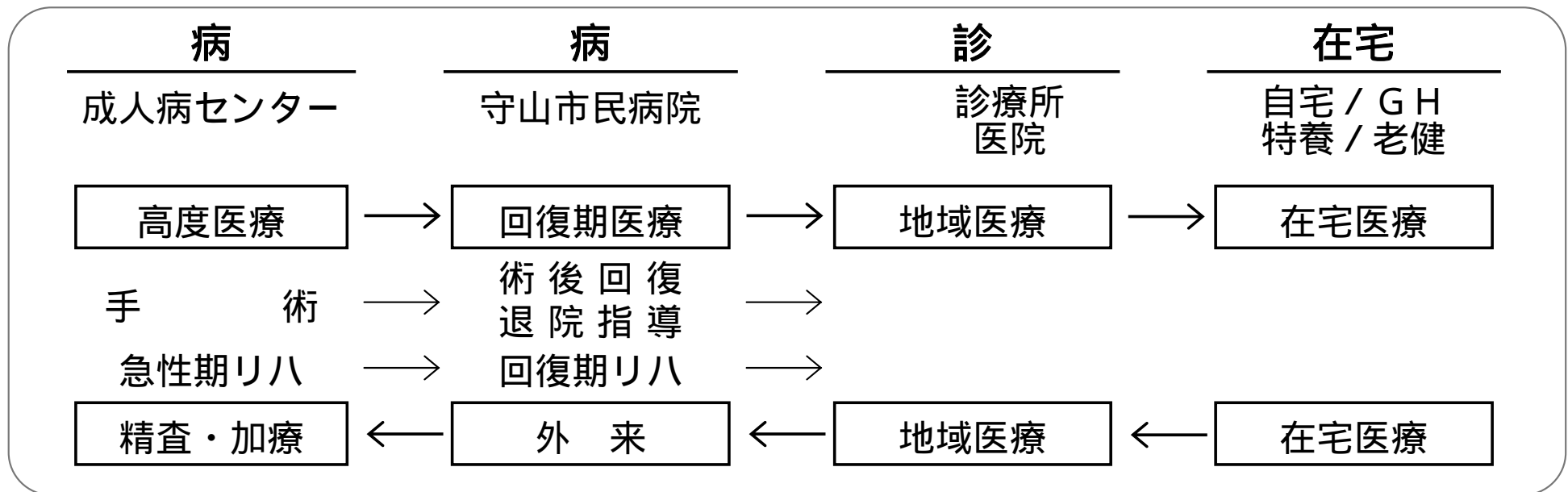
患者さんを支え患者さんが自立する

- 「まかせる、信頼する」ではなく
- 「自分のからだを知り自ら医療にかかわる」
- ・合理的システムの構築

病病診在宅の連携した医療システム



「病病診在宅連携」のモデル体制



ホタル舞う守山駅前水路



↑ ほたるの舞う守山駅前

↓ 守山駅から歩いて5分。



守山駅近くの遊歩道・旧中山道



↑ 楽しむ遊歩道、旧中山道。旧家が「憩いの館」として誕生します。

↓ 楽しむ街に「憩いの館」が誕生。



守山駅近くに誕生した幼稚園・小学校・父兄館



↑ 幼稚園・小学校一体化(中央と右)と“父兄館”(左)。父兄館でボランティア育成も。

↓ 市民体育館と背後に広大な市民運動公園。



公園とともに一体化する成人病センター、守山市民病院



↑ 成人病センター

公園をはさんで歩いて5分の2病院。診療情報の共有化。

↓ 守山市民病院

公園は病院の生活の一部、リハビリテーションに活用。



健康情報提供事業

事業概要

- これからの望ましい医療福祉の基盤整備の1つとして、また県民のみなさんが自立した健康生活を築くことを目的として
- 成人病センターのスタッフを中心に、疾病を正しく理解し上手な健康創りの方法をわかり易く解説
- これをびわ湖放送で放映し、同内容を成人病センターのホームページで配信
- シリーズ毎にまとめてDVDを作成し、県内に広く配布

期待される効果

- 信頼度の高い情報提供により、県民のみなさんが自らの健康創りを正しく理解し実践することにより、自立した健康生活を営むことにつながる
- テレビ放映やICT活用によりこのような効果を県内に広く波及させる
- このことは医療福祉が、これを利用する者、提供する者、そしてこれをつなぐ者の三者の協働とする基本に一役を果たす。



信頼度の高い情報で県民が自立する

これ迄の放送内容と今後の予定

- 第 シリーズ 「がんと生活習慣病を識る」 (平成21年度 20テーマ)
- 第 シリーズ 「お年寄りの健康生活を創る」 (平成22年度 15テーマ)
- 第 シリーズ 「子どもたちの健康を守る」 (平成22年度 15テーマ)
- 第 シリーズ 「5大がんを知る」 (平成22、23年度 21テーマ)
- 第 シリーズ 「がんを知る」 (平成23年度 18テーマ)
- 第 シリーズ 「こころの健康」 (平成23年度 17テーマ)
- 第 シリーズ 「生活習慣病」 (平成23年度 16テーマ)
- 第 シリーズ 「疾病予防と健康創生」 (平成24年度予定)

ICTを活用して**早期離床**、**早期退院**を可能とする リハビリテーションシステム推進事業

背景

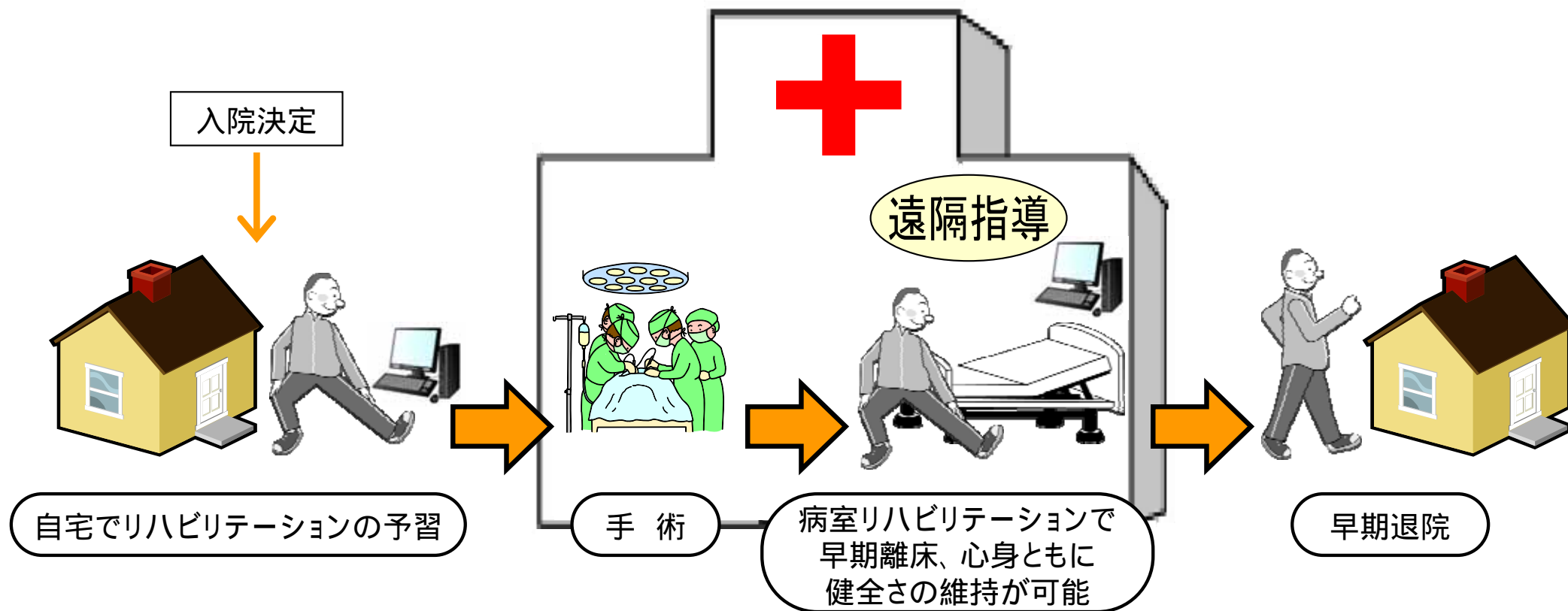
- 高齢者の増加に伴うがんの増加
- 高齢者の身体機能低下と精神機能低下を予防する診療体制が必要
- これに対処する方策が必要

事業概要

- 入院の決定とともに、術後直後から病院で行うリハビリテーションをDVD教材により自宅で予習
- 術後早期より、ICTによる遠隔指導のもとに病室でリハビリテーションを実施

期待される効果

- 早期退院が可能となり、かつ身体症状・精神症状の良好な結果を得る
- がん医療の適切な運用が可能となる



近未来型地域・在宅医療の構築

切れ目のない地域の連携に向けて

「近未来型地域・在宅医療」

わが国において医学・医療はめざましい発展を遂げ、今や世界一の長寿国となった。国民の最大の関心事は健康であり、益々の医学・医療の発展が望まれるが、一方疾病構造は大きく変化し、医療資源の不足、医療経済の逼迫などから医療体制、保険制度についての検討が急がれる。

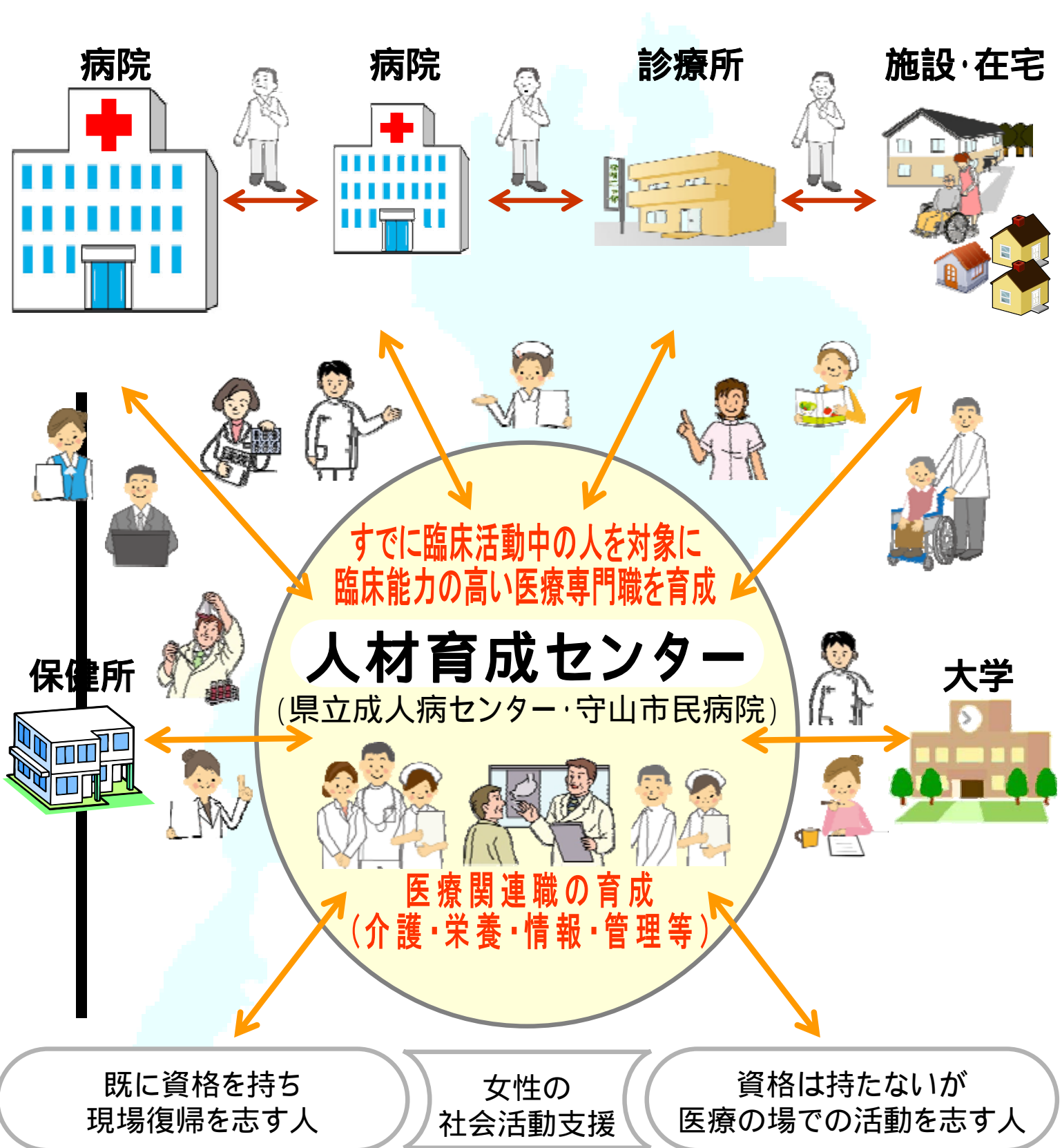
この緊急課題に関する考え方として、従来の病院を中心としたまた医師・看護師を中心とした医療とともに、むしろそれ以上に、地域における**医療専門職を主体とした医療福祉が必要**であり、そしてこれらを**提供する者と利用する者の協働作業**が必要である。

人々にとっての望ましい健康は健康的に生活することと位置づける時、自然、文化、食、教育、労働などを備えた生活空間で、三世代が自立・共生するために必要とする医療を構築する。

三世代が自立・共生して住み慣れたところで安心して老いる - 地域の医療福祉構想 -

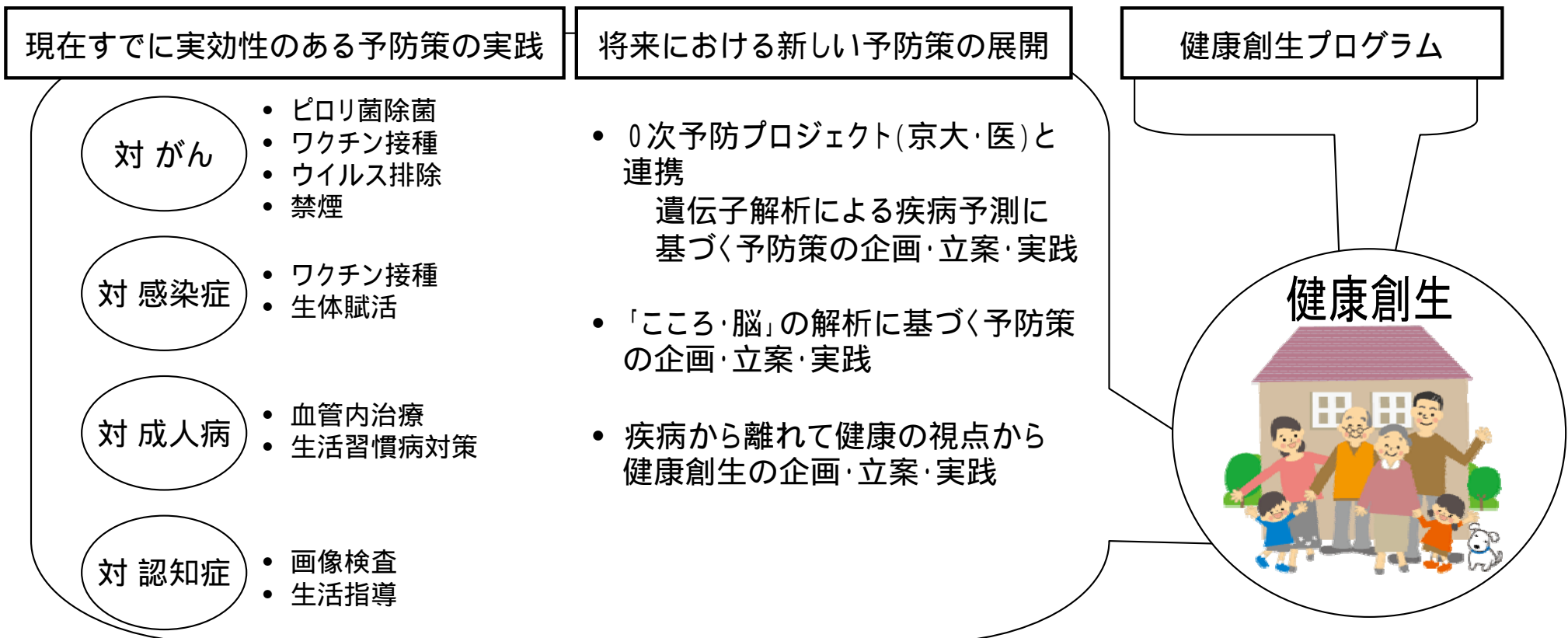


これからの医療を支える医療専門職・医療関連職の育成

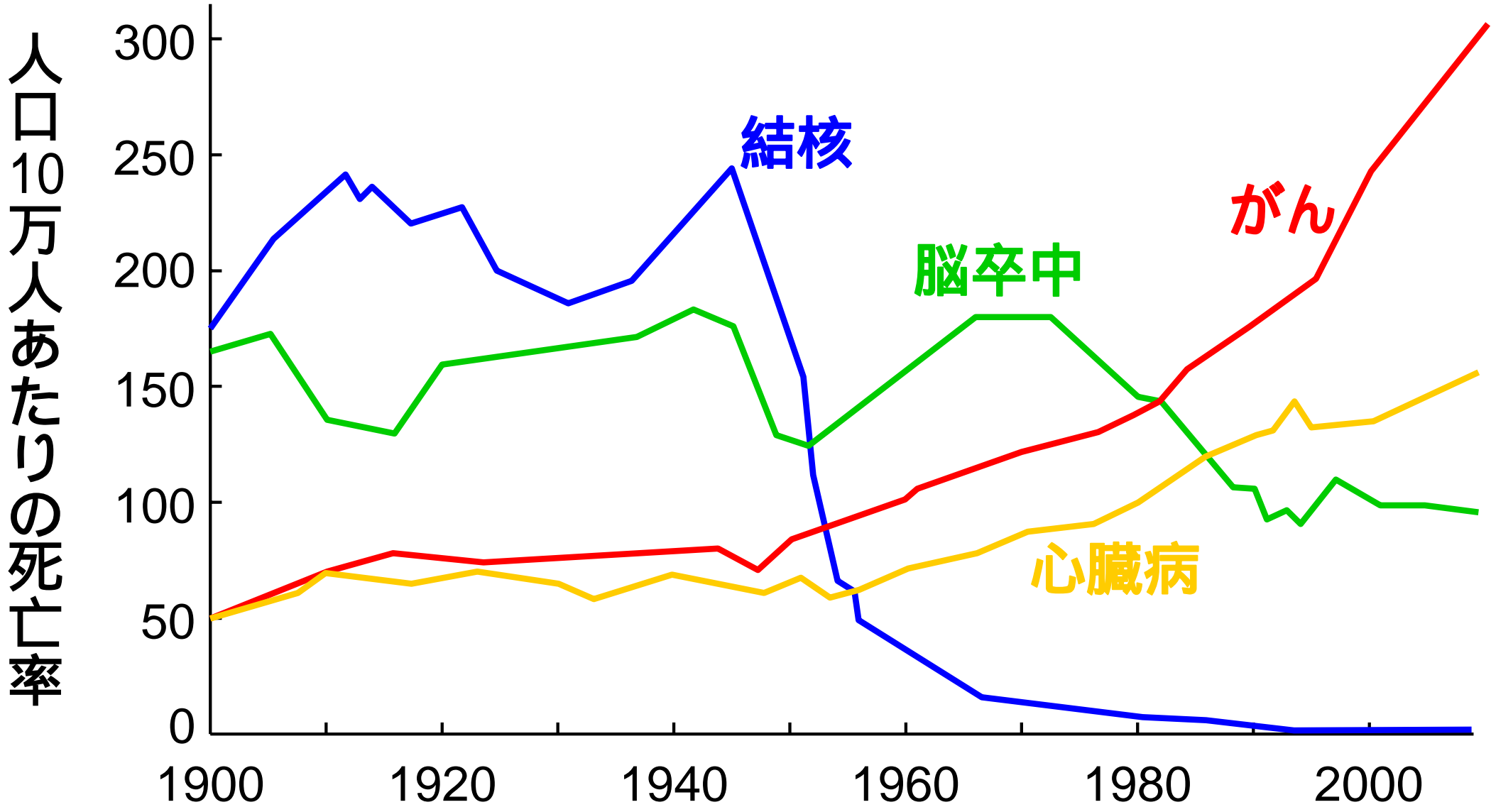


疾病予防健康創生推進事業

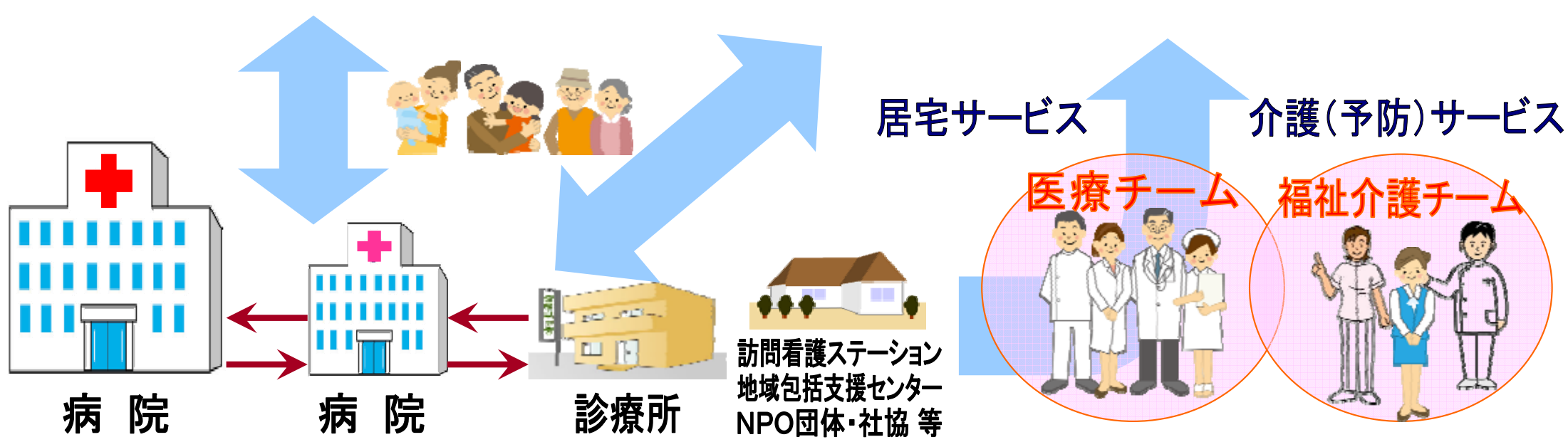
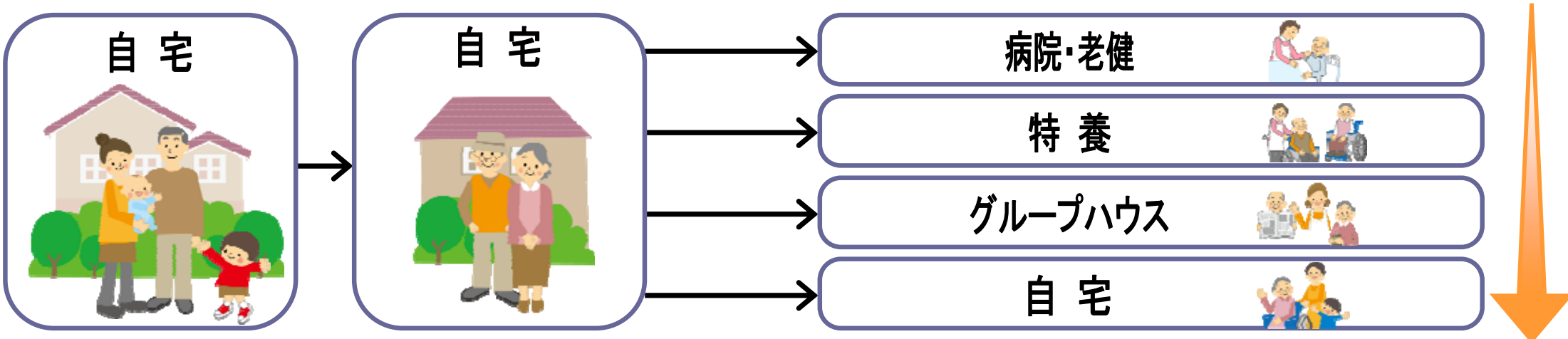
背景	事業概要	期待される効果
<ul style="list-style-type: none"> 高齡者の増加と高齡者特有の疾病の増加 がん、血管病、認知症は部分的ながら予防可能 早期診断・早期治療　　疾病予防 さらに 健康 創生へ 	<ul style="list-style-type: none"> 疾病予防健康創生センターの設置準備 疾病予防に有効な方法の始動 健康創生プログラムの作成、広報 	<ul style="list-style-type: none"> 医療福祉の需要増加に対処する 疾病予防の実効が期待される 疾病から健康へ視点をシフトさせ、 県民自身が 健康生活を創る



わが国の主な死因の変遷



住み慣れたところで老いるまで健康的に生活する — 地域の人々を支える医療福祉システム —



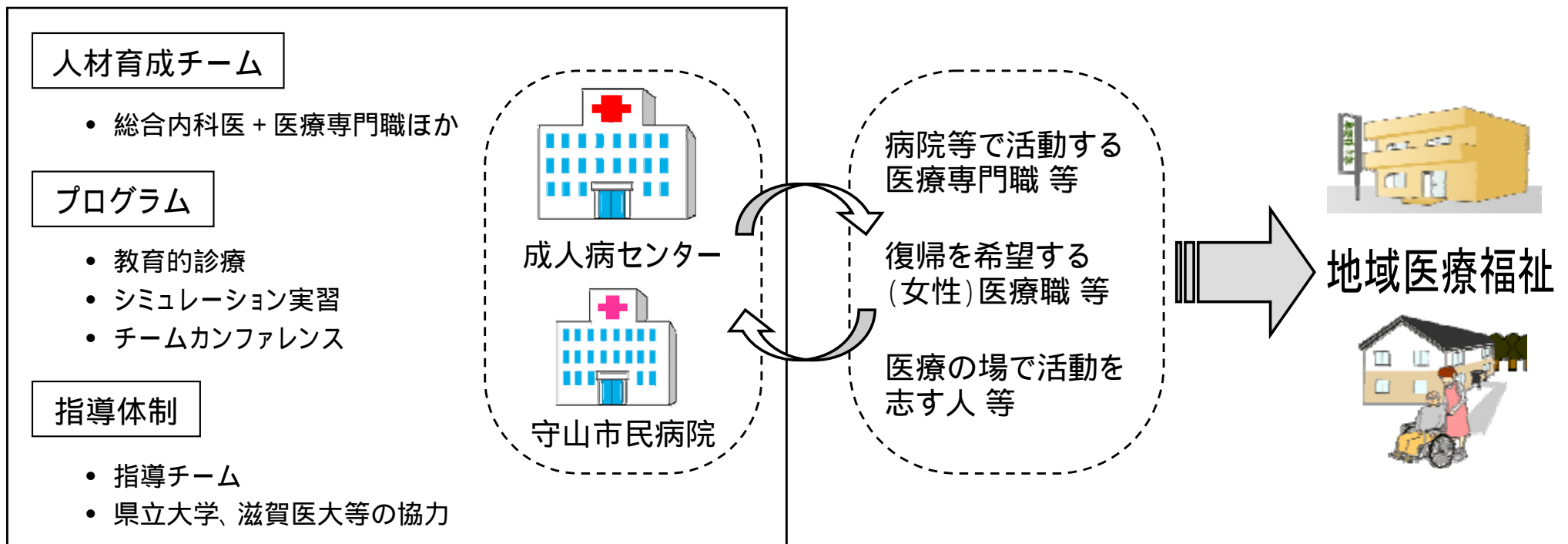
地域を支えつなぐ医療専門職育成事業

事業概要

- 増加し続ける高齢者、そして高齢者に特有とする疾病(がん、血管病、認知症)に適切に対応するため
- 限りある医療資源を活用し、逼迫する医療経済に対応する有効な方法として
- 医療専門職を育成し、高齢者医療福祉に有用な地域医療体制の整備を図る

期待される効果

- 医療専門職の育成により、それぞれの専門職が患者さんに最も有効な技・知を提供する
- チーム医療実践の整備の基盤となる
- 高齢者が住み慣れたところで安心して老いるために必要不可欠な地域医療福祉体制の構築へと発展させる



在宅で安心して療養できるシステムづくり

～ 訪問看護と訪問介護の一体的に提供できる仕組みの構築～

在宅医療の推進を図るため、訪問看護・訪問介護の機能を強化し、医療依存度の高い在宅療養者の地域生活を支え、24時間365日安心して療養できる体制づくりを推進

H23年度

モデル地域 滋賀県守山市
実施主体 NPO法人ゆうらいふ
事業内容

- (1) 検討会開催、試行事例の選定
- (2) 訪問看護・介護サービスの試行実施
- (3) サービス評価、事業検証

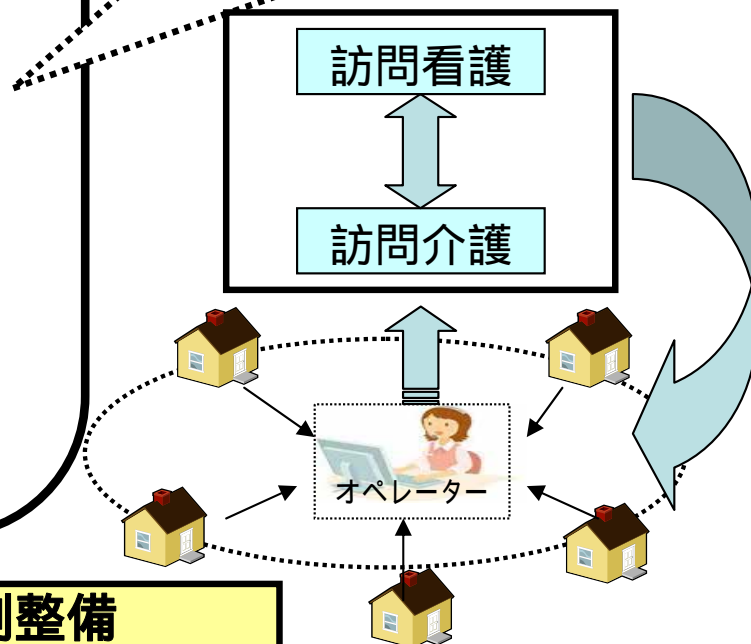
(4) 市民への啓発活動
 「老い」「認知症」「死」を考える地域づくり

事業費

総事業費2,154千円(県補助2,000千円)

運営上の課題
 解決策の検討
 制度の検証

訪問看護と訪問介護が一体的、
 又は密接に連携しながら巡回
 訪問等行う。



H24年度～ 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの体制整備